

平成29年7月3日（月）、大田市立高山小学校において、第1回みーもスクールを開講しました。対象は3・4年生15名。島根県森林インストラクターの中村正志氏・池田友紀・藤原人美氏の指導で、高山小学校の学校林である「緑の道」でネイチャーゲームと樹木学習を行いました。前半は、「緑の道」の入り口付近で「カモフラージュ」などのネイチャーゲームを行い、後半はヘルメットを装備して遊歩道を歩きながら、味、手触り、葉の特徴など、色々な発見をしながら樹木の学習を行いました。



9個のお題で自然の物を見つけるビンゴゲーム形式の自然体験では、児童の想像力・発見力・発想の豊かさに驚かされました。



平成29年10月2日（月）、大田市立高山小学校において、第2回みーもスクールを開講しました。今回の対象1、2年生12名で、学校林に入って樹木観察をする予定でしたが、大雨の為、島根県森林インストラクターの池田友紀氏からスクリーンを使って「森についての話」を聞き、押し葉を使った「落ち葉アート」の指導を行いました。



当日雨の中、学校林に入って集めてきた落ち葉やカエル、カタツムリなど、雨の日の森の中で見つけた動植物について質問をまじえてお話をしました。



事前に準備しておいた、押し葉と集めた落ち葉を使ってA3の用紙に「落ち葉アート」を描き、全員で作品の発表会をしました。多くの児童が、葉っぱや木の実を使って海の中をイメージした作品になりました。全員自然（星空や森の中等）を題材にした作品になりました。



最後に葉っぱの葉脈を鉛筆でこすり、紙にうつしだして楽しみました



平成29年10月20日（金）大田市立高山小学校において、第3回みーもスクールを開講しました。5・6年生13名。「森林保全の大切さ」の話しと「間伐・枝打ち等の森林整備体験」の指導を行いました。



林業技士の野田真幹氏から、「森林保全の大切さ」の話しの中で雑木林と人との関わりや、人工林の間伐の大切さについても併せて聞きました。



学校林の中に入り間伐体験をしました。安全な作業をするための備えや確認作業について話を聞き、間伐した事により光が入ってくるのを実感しました。



一生懸命引っ張ってみんなで力を合わせ2本の木を切り倒し、鋸を使って枝打ち作業をしました。1本は後日シイタケの植菌に使う原木として使用する事になりました。最後に、池田氏より学校林について話を聞きました。





平成29年11月15日（水）、大田市立高山小学校において、第4回みーもスクールを開講しました。今回の対象5～6年生13名に対して、「原木シイタケの植菌と伏せ込」と「飾り炭体験」を行いました。



学校林へ入る前に安全に作業するための注意点を説明してから、前回切り倒しておいた栗の木にシイタケの植菌を野々村氏の指導で行いました。電動ドリルで穴を開けた原木に、菌のコマを1つずつ丁寧に金槌で打ち込んでいきました。全ての穴に埋め込まないと雑菌が木に入ってしまう、シイタケ菌が負けてしまいます。



太くて重い木は二人で、伏せこみ場所に運び「らちぶせ」という伏せ込み作業を行いました。シイタケ菌が夏の暑さで死なないように、葉っぱの付いた枝を上からたくさん乗せてすっぽり隠しました。こうする事で雨風の強さにも菌を守る事ができ木全体に菌が回ります。残念ながら6年生は椎茸を食べる事ができません。



教室で「雑木林と人との関わり」について話をしました。話の中で次に体験する炭焼きが島根県の大事な地場産業であり、収入源であったことを話しました。無煙炭火器で火を起こしている間に、炭の材料の説明と作り方を説明し、どんなのができるかとワクワクしながら賑やかに飾り炭体験をしました。



最後に、材料が缶の中でどのように炭になっていくのか。また、飾り炭の活用方法やについて話をしました。